

# 東ト協経営分析結果(平成22年度決算結果)概要 (速報版)

## I. 目的

全日本トラック協会では、平成4年度から毎年「一般貨物自動車運送事業事業報告書」並びに「貨物自動車運送事業実績報告書」(以下「事業報告書等」)を活用した経営分析報告書を作成しており、東ト協においても、同事業への会員の参加を募っているところであるが、参加事業者数が例年70社程度と少なく、東京の業界の指標とするにはサンプル数が少なかつた。そこで、一昨年度(21年度)から、集計対象者数を増やすため本部、支部を経由する「事業報告書等」を事業者名を伏せて収集し、収集した「事業報告書等」は全ト協経営分析システムと同様のコンピュータ処理を行い「東京の業界指標」を作成することを目的に実施したものである。

## II. 実施概要

本部・支部を経由して運輸支局に提出される「事業報告書等」をコピーした数は、624社であったが、以下の通り、集計対象基準を全ト協経営分析と同様の基準(但し、本業の売上比率80%以上を、東ト協調査では50%以上とした。)としたところ、基準に該当しない事業者は、本経営分析の集計対象外としたことから、今回の集計対象事業者数は223社となった。  
(有効集計率35.7%)

	平成22年度決算	平成21年度決算
調査票の回収数 (A)	624	677
集計対象事業者数 (B)	223	267
有効集計率 (A) / (B)	35.7%	39.4%

### 〈集計対象基準〉

- (1) 特別積合せ貨物運送事業者、霊柩運送事業者を除く一般貨物運送事業者
- (2) 一般貨物自動車運送事業(本業)の売上比率が50%以上の事業者……〈注〉
- (3) 傭車売上比率が20%以下の事業者
- (4) 「事業報告書等」のデータに不備のない事業者

〈注〉但し、集計にあたっては、全ト協基準が80%以上であることから、前年度調査との比較、全ト協調査との比較の関係上、集計対象基準の本業の売上比率を、①80%以上、②50%以上、③50%以上80%未満に分けると次のようになる。

- ①80%以上: 21年度決算239社→22年度決算205社
- ②50%以上: 21年度決算267社→22年度決算223社
- ③50%以上80%未満: 21年度決算28社→22年度決算18社

### Ⅲ. 調査結果の要約

平成22年度決算の東ト協経営分析結果は、売上高が落ち込む中で、骨身を削るような経費削減努力によって、なんとか収支をカバーしている実態が明らかになった。

燃料油脂費で6.9%、施設使用料で12.8%などの経費増があるものの、人件費で4.0%、一般管理費0.9%、修繕費5.9%減など、様々な手立てを講じて経費削減に努め、かろうじて黒字に転換していることがうかがえる。

なお、小規模事業者、特に車両台数10台以下においては、営業利益率でマイナス4.1%、経常利益率ではマイナス1.6%と赤字状態が続いており、極めて厳しい状況下にある。

#### ○経費削減努力によって、かろうじて黒字に転換。

- ・売上高で3%減、営業費用で4%減と規模が縮小。
- ・営業利益率で、僅かながらも黒字に転換。(営業利益率0.6%)
- ・「日車当たり」「走行1キロ当たり」の営業損益で黒字に転換。  
(「日車当たり営業損益」187円。「走行1キロ当たり営業損益」2円)
- ・但し、経費削減効果が大きく、「日車当たり」費用で6.8%減、「走行1キロ当たり」費用で4.1%減である。
- ・経費の削減で利益を確保しており、輸送トン数や走行キロ数など、荷動きに関わる指標については悪化している。

#### ○小規模事業者では、走れば走るほど赤字。

- ・「10台以下」では、「日車当たり」マイナス1,321円、「走行1キロ当たり」マイナス9円と、「走れば走るほど赤字」状態は解消されていない。

○走行1キロ当たりの営業損益では、平均で2円の黒字に転換したが、あくまでも経費の削減に努めた結果であり、運賃水準の低迷に歯止めがかかったわけではない。小規模事業者では依然として赤字傾向であり、「実運送事業」の危機的状況に変わりはなく、適正運賃の収受が極めて重要と言える。

1. 採算(損益)の状況 ※図1、図2参照

	営業損益 (千円)	経常利益率	営業利益率	営業黒字 企業割合
平成20年度	-1,988	-0.5%	-0.9%	38%
平成21年度	-1,060	1.6%	-0.6%	46%
平成22年度	1,026	1.5%	0.6%	47%

2. 実働率(延実働車両数・日車/延実在車両数・日車×100)

実車率(実車キロ数/総走行キロ数×100) ※図3参照

	実働率	実車率
平成20年度	74.6%	67.7%
平成21年度	70.4%	68.6%
平成22年度	70.9%	66.8%

3. 日車当たりの輸送トン数・走行キロ・実車キロ ※図4参照

	輸送トン数 (t)	走行キロ (km)	実車キロ (km)
平成20年度	6.2	155	105
平成21年度	6.9	158	108
平成22年度	6.7	153	102

4. 走行1キロ当たりの輸送効率(単位:円) ※図5、図6参照

	営業収益/ 総走行キロ	営業費用/ 総走行キロ	営業損益/ 総走行キロ
平成20年度	255	257	-2
平成21年度	241	243	-2
平成22年度	235	233	2

図1

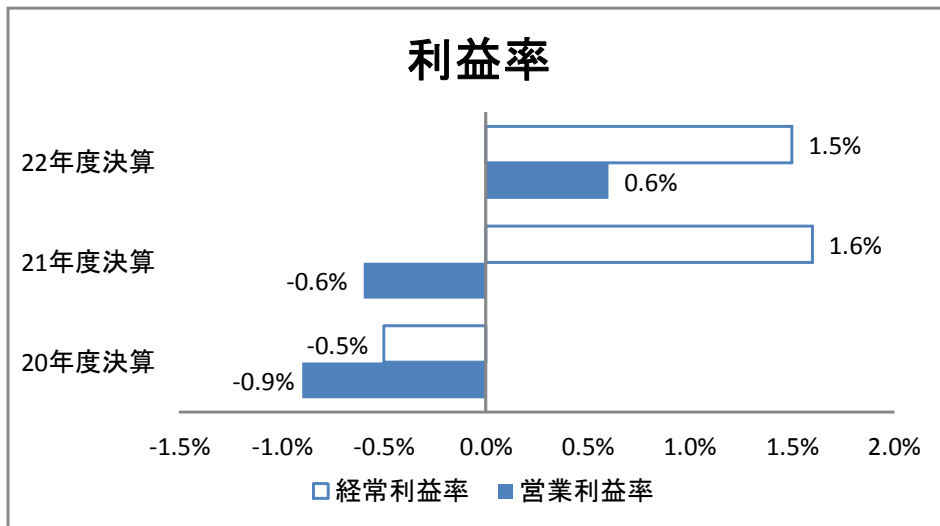


図2

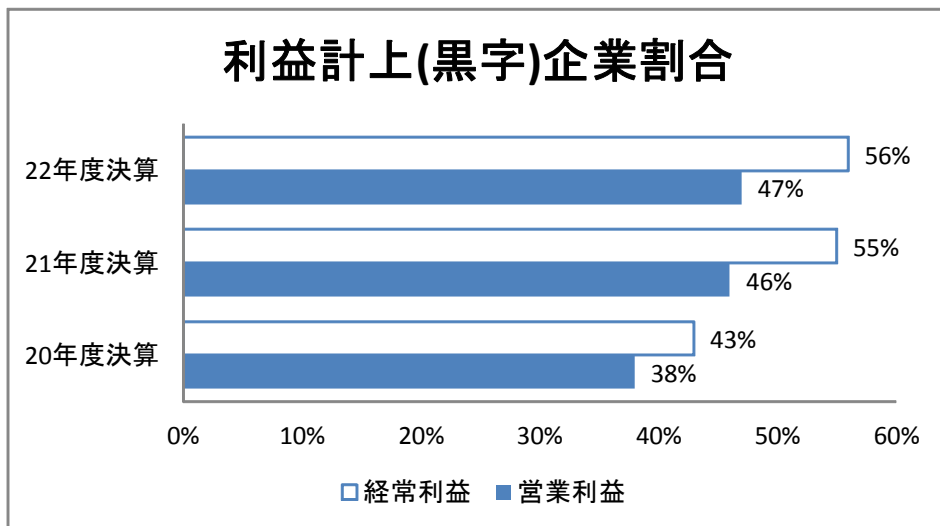


図3

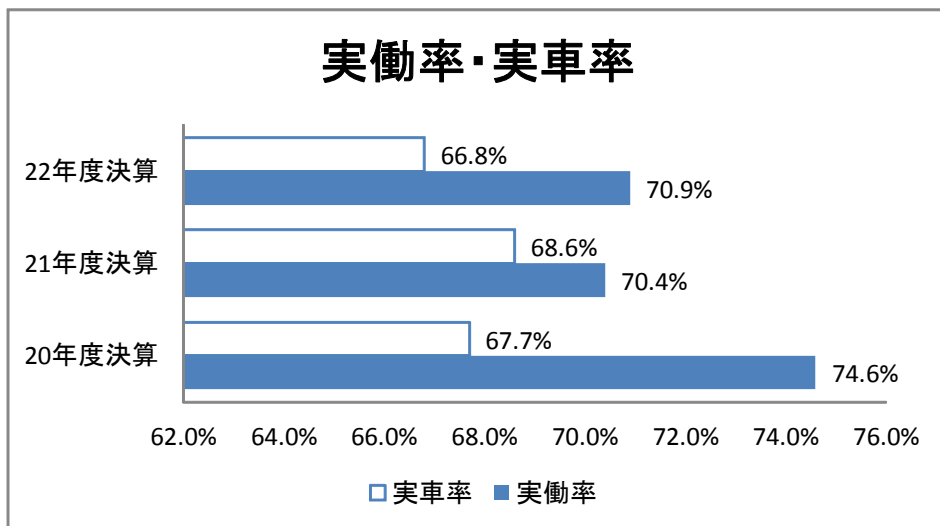


図4

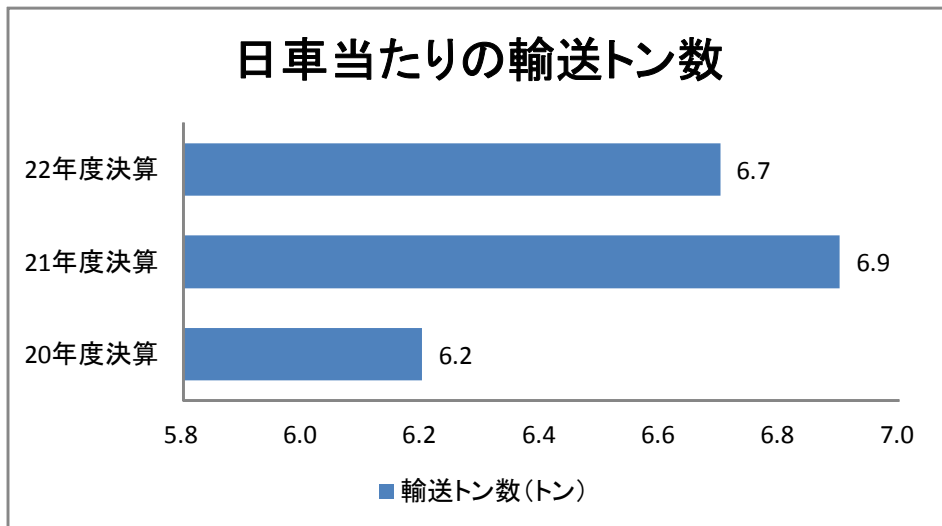


図5

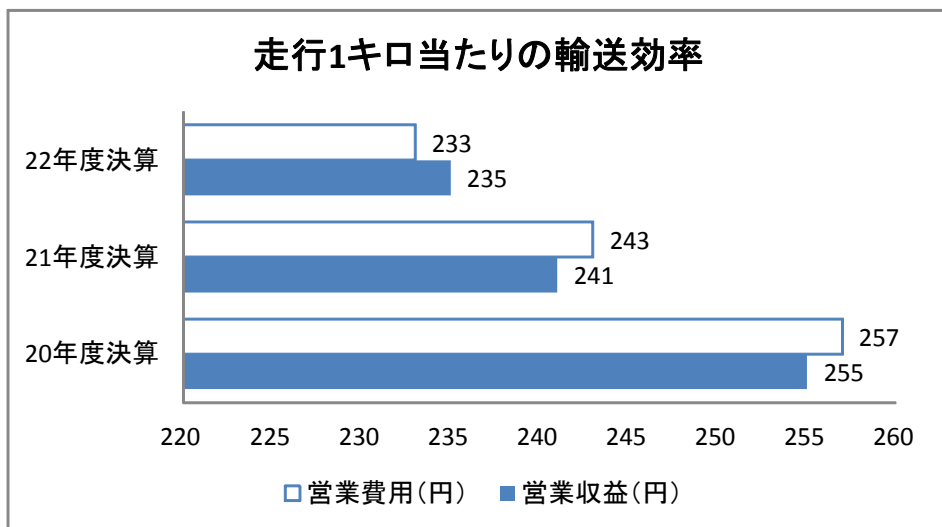


図6

